

8 月度 例会 山行報告書		報告者	渡辺勝利	参加 メンバー	CL; 渡辺勝利 育子
		報告日	9/6		
山城	北ア 南部	山行日	09 年 08 月 28 日 (金) ~		
山名	焼岳 2393m		09 年 08 月 30 日 (日)		
山行目的	夏山探訪		コースタイム (天候: 天気図記号)		

配布先
総会参加数
山行: 1
リーダー
原紙:
会事務局

ルート図 (地図を見て正確に)



1/2.5 万地形図:

- 8/28 曇り
23:00 自宅発
- 8/30 曇り後雨後晴
3:00 道の駅にて車中泊
(奥飛騨温泉郷上宝)
- 5:00 道の駅発
- 6:00~20
R158 登山道 P に車テ^ホ
(11号、10号カーブ 中間点)
- 7:40 1900m t^ク
- 8:10~25
旧中の湯ルートとの合流点
- 9:05 2300m 地点通過
- 9:30 南峰、北峰 コル
- 9:45~55 北峰登り口
(中尾コースからの合流点)
- 10:05~30 北峰頂上
- 10:45 北峰登り口
- 11:40~12:00 焼岳小屋
- 14:05 中尾峠コース登山口
- 17:00 白骨温泉着(宿泊)

〈山行報告〉 明日からの天気予報では芳しからずとは報じられているが計画通り前夜発。東海北陸道清見 IC 經由中部縦貫道高山西 IC で降り、平湯から栃尾の道の駅まで足を伸ばし車中にて 2 時間ほど仮眠。曇り空の中を再び平湯に戻り R158 の安房峠を目指す。道はかなり狭くカーブも多いが車の往来が少なく運転はし易い。昔はこの道を小さなボンネットバスに揺られて、上高地から高山まで帰ったこともあったなあと車社会に暮らす利便性に感謝しつつも当時を懐かしく思い出しながら安房峠を越え、下りにかかり、ほどなく 11 号と 10 号カーブ (側壁に表示されている) の中間部にある新中の湯コースの登山口に着く。ここには 10 台程度の駐車スペースがあり、すでに先着の数台が駐車されている。予報どおりに雨も降り始めたが、身支度も早々に出発。取り合えず傘をさしながら樹林帯の中を進むうちに本降りとなり、道も急になってきたので片手では危険と判断しカッパを着る。ぶなや、こならの広葉樹がななかまどなどの低灌木帯に変わる旧中の湯からのルートとの合流点付近からは、雨も止みガスも切れ始め、どこからともなく硫黄の匂いが漂い始めた。まもなく、樹林が切れ見通しもよくなり、道の両側に一面に咲くオヤマリンドウ、オタカラコウ、ヤマハハコ等を愛でながらお花畑の中をゆっくり稜線まで歩を進める。南峰と北峰のコルに着くとガスの切れ間越しに紺碧の水を湛えた池を望むことができた。最高点の南峰は登山禁止となっているのでここから北峰の南面の岩場をトラバースして中尾峠からのコルに回りこむ。そこから北峰の頂上までは指呼の間であるが、噴煙の近くを通過するときにはちょっと

緊張した。新中の湯コースは登山者が少なく静かさが気に入ったが、中尾コースからは千客万来の感があり、年配者の群れで頂上は大賑わいであった。頂上からの眺望はガスのため望む術もなく全く期待はずれであったが、上空からの日差しを受けて思わぬ大休止となった。戻りは中尾峠コースを下山。このコースは途中に垂直に近い 10m ほどのはしごがあったり、急なアップダウンがあったりと雨が降った場合は結構いやらしいルートになりそうであるが無事に上高地に下山。

《フリースペース》



焼岳北峰頂上

〈リーダー所見〉 毎年、恒例となった感のある我が家の夏山登山、下山後の温泉宿泊付きでなんとか山の神の同意を得ているが、全面登山禁止になる前にと今年は焼岳にした。天候には恵まれなかったものの、一面のお花畑と立ち上る噴煙から焼岳のよさを満喫できた山行となった。下山後の白骨温泉の白濁したお湯が登山の疲れを癒してくれ、翌日は野麦峠で遊び、多いに見聞を広めることができ、盛り沢山な楽しい山旅であった。

確認
(リーダー)

渡
09/09/06
辺